目 次

** = + o = =	1. J. 1.	a sun	0
巻頭言 春の一日	田村	勝久	2
詩 「ふるさと」のような村・他	曽我	貢誠	4
評伝 仙酔余滴IV	吉田	邦郎	10
詩 エース・かさぶた	近藤	頌	15
詩 龍の眠る川・朝焼け	市川	恵子	18
詩 石の合唱・小さな太陽	服部	剛	22
詩 あの日	葉山	美玖	25
紀行文 中山道を歩く(4)	熊野	友嗣	28
連翹忌通信(1)	小山	弘明	32
短編 二度あることは	岩崎と	:志子	34
詩 卵 (挿画も)・時間軸マジック	マエキ	・クリコ	36
歌詞 LGBTの唄	勝畑	耕一	42
短歌 山手線環詠・東京残照	勝畑	耕一	44
ドイツ訳詩集2(ザラ・キルシュ)	勝畑	耕一	48
詩歌三評	武子	和幸	53
田村勝久 詩集	関	和代	55
結城を歩き探すもの	曽我	貢誠	58
トンボの輪	同人	消息	61
編集後記	桶屋風	人太郎	68

題 字 中島敏枝 編集協力 中土昌則・大井結子(北日本印刷)

春の一日

三月二十四日、金曜。私は東北本線、栗橋駅東口にいた。高さ約五mの銀のモニュメント。日立シビックセンター。東京ならフ約五mの銀のモニュメント。日立シビックセンター。東京ならフ生場所はここでいいのか、不安。案内状が届いていなかったから。は、やや少ない。私は三番目の宿、越谷から参加している。観光は、やや少ない。私は三番目の宿、越谷から参加している。観光は、やや少ない。私は三番目の宿、越谷から参加している。観光は、やや少ない。私は三番目の宿、越谷から参加している。観光は、やや少ない。私は三番目の宿、越谷から参加している。観光は、やや少ない。私は三番目の宿、越谷から参加している。観光は、やや少ない。私は三番目の宿、越谷から参加している。観光ない、大阪を離れた記念日。

演歌のようなタンゴ『湖上の舞』。日光東照宮のテーマ『時を越ユーミンの『卒業写真』を歌う。デビュー曲『帰ろかな大阪』。

い時間は束の間。やはり彼女に反応して書いた『歌姫S』を今度ギターは師匠であるマーク・イースト氏。軽妙な掛け合い。楽し『愛染橋』の伴奏に、間違えてサビまで熱唱した『曼珠沙華』。えて』パワフルな澄んだ歌声。今回のハプニングは、山口百恵の

の詩集に入れるべきだった。

「田村 勝久」 「田村 勝久」 「田村 勝久」 「田立」を、機械が頑張って306(古河)と読み、遠回りした ようだ。武蔵国から下総国へ、東京・埼玉から茨城へ、日本橋を とった。武蔵国から下総国へ、東京・埼玉から茨城へ、日本橋を とった。武蔵国から下総国へ、東京・埼玉から茨城へ、日本橋を とった。武蔵国から下総国へ、東京・埼玉から茨城へ、日本橋を とった。武蔵国から下総国へ、東京・埼玉から茨城へ、日本橋を とった。 この日千秋楽、稀勢の里は負傷からの奇跡の逆転優勝。ちなみ この日千秋楽、稀勢の里は負傷からの奇跡の逆転優勝。ちなみ に祥子さんが応援しているのは豪栄道。同じ境川部屋の豊響が十 に祥子さんが応援しているのは豪栄道。同じ境川部屋の豊響が十

「ふるさと」のような村

曽我 貢誠

働き盛りの母も朝早くから元気だった飼い兎や鶏は家の周りを走り回っていた裏山に野兎は見かけなかったが「ふるさと」のような村だった

童子たちは裸足で夢中になって網ですくったどじょっこもふなっこも動き出したしがこが解ける頃ばっけが芽を出した「どじょっこふなっこ」のような村だった

その下で母は黙々と野良仕事に忙しかった空一面を夥しい数が茜色に染めていた「赤とんぼ」のような村だった

夕暮れ、西の空には一番星が光っていた

頬を吹き抜ける風だけは昔のままだ小川はコンクリートで打ち固められていた兎も、畑も遠の昔に無くなっていた母の倒れた日、久しぶりで村に戻った

そういえばいつも手元に農薬の袋があった「命を縮めたのは農薬かもしれない」墓前で、兄がぽつりと言った

血を吸われたヒルの感触が懐かしい電線のカラスだけが増えたように思うどじょっこも赤とんぼもいなくなった村

童子たちの歓声が聞こえなくなった村

ばっけ→ふきのとう
※しがこ→水の上にできる氷の層

どちらも秋田の方言

夕餉のひととき

子はいつものように遊んでいた

母は遠くから子を呼んだ

「あー」

子は返事をした

母は飯を山盛りにして差し出した子は飯台の前に座った

「けー」

子は答えた

「めー」
しばらくして母は子の顔を見て言った

子は笑顔で答えた

「め | |

ある夕餉のひととき 母もにっこり微笑んだ

カラスも無事お家に帰ったようだ

あー くけー →帰ってきなさい →食べなさい →はあい

→うまいよ →おいしいか

→いただきます

自然と言葉が短くなったようだ 秋田では口を開けると雪が入るので

かくれんぼ

もういいかい

もういいよい

どこにも見つからない振り返ってよく捜すのだが

あれから何年も捜したのだがあれから何年も捜したのだろう

どこにも見当たらない

どこへいってしまったのだろうそしてぼくの夢や青春は

そっとぼくを手招きしているみんなどこかに隠れたまま

もういいよい





森本達雄先生を悼む

吉田邦郎

ねながら『あなた』(注1)に迎えられるまでの大切な日々を穏やかに過ごしまかな薫りをわたしは大気のなかに感じとっている』という一節に父の思いを重ま仕事を終える秋(とき)が来たかのようだ。そしてあなたの芳しい存在の仄

— 10 —

のように思い返していた。することなく逝ってしまわれた先生との関わりを走馬灯することなく逝ってしまわれた先生との関わりを走馬灯これを私淑というのであろうか。ついに一度もお逢い

りになっていた。解題も心に沁みる暖かなものであった。著の冒頭を、先生は詩集「ギタンジャリ」の名訳でお飾タゴール研究者や翻訳家が執筆した六四○頁にも及ぶ大『タゴール著作集 第一巻 詩集Ⅰ』によってであった。 思えば先生のお名前を知ったのは、もう十年以上も前、

目の『タゴールの歌』が加わった。

目の『タゴールの歌』が加わった。

自の『タゴールの歌』が加わった。

自の『タゴールの歌』が加わった。

自の『タゴールの歌』が加わった。

一三年、タゴールがアジア人として初めてのノーベル文この詩集の由来すら分からなかったが、これこそが一九か、「歌の捧物」という詩集が載っていた。当初、私には『タゴールの歌』には「新月」「花園守」(注3)のほ

歌一首に仕立てたものであった。わく各詩の眼目を掴み百三編すべての詩を、それぞれ短タンジャリ「歌の捧物」は、その翻訳ではなく、仙酔い学賞を受賞した『ギタンジャリ』であった。仙酔版のギ

タゴールの歌の多くは「永遠なるもの」「無限なるもの」をなく夜となく、わたしの血管を流れる同じ生命の流れいる。たとえば『ギタンジャリ』第六九歌の冒頭は「昼いる。たとえば『ギタンジャリ』第六九歌の冒頭は「昼いる。たとえば『ギタンジャリ』第六九歌の冒頭は「昼いる。たとえば『ギタンジャリ』第六九歌の冒頭は「昼いる。たとえば『ギタンジャリ』第六九歌の冒頭は「昼いる。たとえば『ギタンジャリ』第六九歌の冒頭は「昼いる。たとえば『ギタンジャリ』第六九歌の冒頭は「昼いる。たとえば『ギタンジャリ』第六九歌の屋のなかをが、世界をつらぬいてながれ、律動的に鼓動をうちなが、世界をつらぬいてながれ、律動的に鼓動をうちなが、世界をつらぬいてながれ、律動的に鼓動をうちなが、世界をつらぬいてながれ、律動的に鼓動をうちなが、世界をつらぬいてながれ、律動的に鼓動をうるもの」を立るもの。

ールの詩の神髄を捉えていたことが理解できる。しかしの訳詩を鑑賞したのち、仙酔の短歌を読めば、彼もタゴ血はとはの調に躍るとすらむ」となる。確かに森本先生この詩が仙酔の短歌では「天地をくぐりて流る 生の

ルの原詩を読むことから再出発しようと考えた。当然のことながら挫折した。反省した私は素直にタゴーうと考えていた。私の不明の致すところである。そしての英詩のすばらしさは伝わってこない。当初、私はこのの英詩のすばらしさは伝わってこない。当初、私はこのの英詩のすばらしさは伝わってこない。当初、私はこのの英詩のすばらしさは伝わってこない。当初、私はこのの英詩のすばらしさは伝わってこない。当初、私はこのの英詩のすばらしさは伝わってこない。当初、私はこの余りにも短い彼の短歌だけでは、残念ながらオリジナル

"The Crescent Moon"と"The Gardener"を、また、『ギタ"The Crescent Moon"と"The Gardener"を、また、『ギタンジャリ』についてはレグルス文庫、森本訳注の本を入いた。さらに、素世子さんの欠礼のはがきにも引用されいた。さらに、素世子さんの欠礼のはがきにも引用されいた。さらに、素世子さんの欠礼のはがきにも引用されいた。さらに、素世子さんの欠礼のはがきにも引用されいた。さらに、素世子さんの欠礼のはがきにも引用されいた。さらに、素世子さんの欠礼のはがきにも引用されいた。さらに、素世子さんの欠礼のはがきにも引用されいた。さらに、素世子さんの欠礼のはずままで、『新月』と『園丁』についてはマックミラン社のまず、『新月』と『園丁』についてはマックミラン社のまず、『新月』と『園丁』についてはマックミラン社のまず、『新月』と『園丁』についてはマックミラン社のまず、『新月』と『園丁』についてはマックミラン社のまず、『新月』と『園丁』についてはマックミラン社のまず、『新月』と『園丁』についてはマックミラン社の

いう後悔の念である。
いう後悔の念である。
いう後悔の念である。
にこの歳になるまで何でタゴールを読まなかったのだ」とから聞いて、七〇年も前から名前だけは知っていたのに、から聞いて、七〇年も前から名前だけは知っていたのに、しさを知ると同時に後悔の念にさいなまれた。「俺はお袋しさを知ると同時に後悔の念にさいなまれた。そして、その素晴らところが、原詩と森本氏の訳詩を読み始めた私は、そ

それに引き比べ、終戦の翌年に大学生となった森本先生は郷里の和歌山で英語の勉強のため宣教師から借りたいる。そして、のちにNHK放送番組「人と思想」やている。そして、のちにNHK放送番組「人と思想」やている。そして、のちにNHK放送番組「人と思想」や「心の時代」に出演した先生は、その講演録『ガンディーとタゴール』で、この経験がその後の人生の針路を定める発端となったと述懐している。

一方、『タゴール 死生の詩』は、ギタンジャリ選りす 一方、『タゴール 死生の詩』は、ギタンジャリ選りす でいる。

り、何とか「仙酔のタゴール詩論」を纏めあげ、全体のの短歌、森本先生の訳詩および注釈を並記することによたときには、あまり悩むこともなく、各詩ごとに、仙酔半年以上も離れていただろうか。再び執筆に取りかかっさて話を戻そう。このような次第で、仙酔の本からは

草稿も二〇一二年の秋口には出来上がった。

しかし紆余曲折を経てできあがったのはよかったのだい、その中の森本先生からの引用が「剽窃」といわれても仕方がないほどの大量になってしまった。従って許可も仕方がないほどの大量になってしまった。従って許可を頂きたく手紙をご自宅に送ったが、年を越してもご返を頂きたく手紙をご自宅に送ったが、年を越してもご返を頂きたく手紙をご自宅に送ったが、年を越してもご返を頂きたく手紙をご自宅に送ったが、年を越してもご返を頂きたく手紙をご自宅に送ったが、年を越してもご返を頂きたく手紙をご言宅に送ったが、年を越してもご返を頂きたといる。

本先生はどうなさっているだろう」と思いながらも、一

お陰さまで本も出版でき、それから二年近く経ち、「森

森本達雄先生

ます。 (中 略)生のご病状は如何でございましょうか。お伺い申し上げ生のご病状は如何でございましょうか。お伺い申し上げ拝啓 蒸し暑い梅雨の時期に入りましたが、その後、先

っていたところ、やっと返書を頂きました。これにより、が、年が明けても中々ご返事が頂けず、「困ったな」と思のは確か二〇一二年の十月頃だったと記憶しています量な引用のお許しを頂くためのものでした。差し上げた長祖の私の書簡は、先生の文章の大

た。 のお許しを頂いたのかもしれないと憶測しておりましてあり、もしかしたら先生の預かり知らぬところで引用は奥様の筆跡でしょうか、手書きで「森本達雄代」としは文がお願いをしてしまったことを知りました。封筒に知らぬこととは云え、先生のお命の大変な時期、とんで知らぬこととは云え、先生のお命の大変な時期、とんで

正され、無為に過ごしてきました。 ところが昨年六月十四日の日曜日に、朝日新聞で先生ところが昨年六月十四日の日曜日に、朝日新聞で先生ところが昨年六月十四日の日曜日に、朝日新聞で先生以上に重篤な状態だったらも二度も倒れられ、想像した以上に重篤な状態だったことを知るに至りました。それ以上に重篤な状態だったことを知るに至りました。それ以上に重篤な状態だったことを知るに至りました。それのいで「森本達雄代」と書かれた方は奥様だったのだろうか、それともお嬢様だったんだろうかなどと、今になって詮索しております。

ます。
ありきたりのお悔やみ、慰めの言葉は、述べる気にもありきたりのお悔やみ、慰めの言葉は、述べる気にもあります。最後にご著書『タゴール死生の詩』い状態にあります。最後にご著書『タゴール死生の詩』ころ特に病気を抱えていませんが、老人特有の心身の衰えは次第に増し、何時あの世に旅立っても不思議ではなるりません。私も八十一歳の高齢者です。幸い現在のとありきたりのお悔やみ、慰めの言葉は、述べる気にもありきたりのお悔やみ、慰めの言葉は、述べる気にも

軽々と耐え忍ぶ力を与えたまえ。願わくば、喜びにも悲しみにも

超然と孤高に保つ力を与えたまえ。日常の無益なことどもから願わくば、私の心を

平成二十七年六月一六日

不一

吉田邦郎

いた。日進市は森本達雄先生のご自宅があり一時間もあいた。(注6)あと一ヶ所、日進市に行こうか否か逡巡しての滝田家跡を見学し二泊三日の旅を終えたところだっの滝田家跡を見学し二泊三日の旅を終えたところだっの滝田家跡を見学し二泊三日の旅を終えたところだった。(注6)あと一ヶ所、日進市に行こうか否か逡巡してた。(注6)あと一ヶ所、日進市に行こうか否か逡巡してに注5)中部国際空港に隣接する常滑市にある廻船問屋に注5)中部国際空港に隣接する常用である。

そんな思いが錯綜し断念した。れば行ける。しかし病床にある先生はご迷惑であろう。

た。

(以下次号)
た類い稀なる碩学のインド学者を悼む声にも接しなかっ
話題にもならず、またこの年に合わせるように世を去っ
が来日から百年目であったが、その記念の年はほとんど
会は永遠に失われた。奇しくも二○一六年はタゴールの
会は永遠に失われた。奇しくも二○一六年はタゴールの

- て「あなた」「おんみ」「主」「王」などと呼んでい(注1) タゴールは永遠なるもの―(彼の神)をときに応じ
- も不首尾に終わっている。
 いる冩眞の探索や彼の通訳の記録の発見等―いずれ(注2) 幼なかった姉の記憶にあったタゴールと仙酔が写っ
- (注3)「花園守」―現在では、この詩集は「園丁」と訳され
- (注4) 本文は活字、封筒の表裏は手書き。入院のため返書
- (注5)参照―トンボ第三号「仙酔余滴」「名古屋の心友 藤
- おり、彼女の遺品を集めた小さな資料館が付設され○五)さんのご実家跡である。今は記念館となってして頂いた才色兼備の滝田あゆち(一九三二~二○(注6)常滑の滝田家は筆者の日航時代の先輩で生前親しく

エース

爽やかですな スポーツでのエース

どろどろとした黒いわだかまりもない いやあったとしても 一点の曇りもけがれもない

スポーツの場合

どこかに吹き飛んでしまう

そのよごれは

実力がものをいうので

仕事でのエース

一見 爽やかですな

残るのはみじめさか そんげんか いふか

近藤

頌

呼ばれていた時期

それはそれは気分がよかった

一変してどうだろう

自分ではない人に対して一変してとうだろう

過剰なまでに傷つけられる気分というのは向けられたエースというお札によって

しんどいものであるなかなかに

なぜ痛むのかなにが違うか

わたしは仕事を粗末に思っていない周りの人間が思っているほど

見た目には現れていないだけでただそれがどうやら

そのことはわかってほしくて

でもそんな

粘りけのあるしつこい恋人みたいなことはわかってほしいだなんて

避けたいから

動いていくのみ

仕事場で使うな

かさぶた

かたくなになるのを治している傷口を守るためですかさぶたが硬いのは

どうかゆるしてください

龍の眠る川

十七キロの幅狭な水域だけが帷子川には一匹の龍が眠っている

世界のすべて

と 言われて久しく

おまえの遺伝子だけは残さないでくれ

暗渠になることだけを

待っていた

水底に向けていた眼を凝り固まった身をくねらせて

空へ押し上げる

回を開けている

電天には白い太陽が出口となって

季節は何度巡っても

市川 恵子

鯉は必死に息継ぎをし

鷗が旋回し

鳩は餌を求め 並走する鴨は交わらない

かに飲を羽め

枯れ芒が金粉を纏っている

昼も夜も

鴉となにやら話をしている愁い人が訪れては

そして 相鉄線は

白い太陽に吸い込まれ

銀河へと旅立ってゆく

たしかな命があるのだと苔色の世界にも

この生き方を をてのものから での生き方を

学びはじめる

— 19 —

朝焼け

落ち込んだ朝は 頭を鈍器で殴られたように

歩いてみる

思い切って外に出て

見上げれば

どこまでも続いて 朱色の帯が

海と炎の

薄水色のグラデーションと

相容れないもの同士が

知る

溶け合うこともあるんだと

その瞬間、

容赦なく体に入り込み刺すような空気が

どく どく どく

浄化されていく と 音を立てて どく どく どく

きびしくて やさしい

痛みを与えてくれるひとの

犠牲をおもうとき

こもっては 吐き

詩は心臓のポンプとなって呼吸をし

透明にかえてゆく

— 21 —

石の合唱

転がってこれた丸石が

僕の爪先にぴたり、とまる

―丸石は、囁いた

アスファルトを、撫でていった一枚の枯葉は喋りながら空っ風が吹いてきて

石達が無音の合唱を歌いアスファルトに閉じ込められたよく見ると、丸石の周囲には

服部

剛

(口を開き)

立ち止まる、歩行者の僕に信号待ちのひと時

哀しく微笑みかけるのだった 朧な光の糸で結ばれながら 一人ひとりの石達は



小さな太陽

脱いだ僕は

小さな太陽になろうこれからの日々に遍在する

〈今・ここ〉に日溜り、在り

互いの瞳の内に、交信するように

昔々のヒトの記憶を

小さな太陽を宿すという

ほんとうは誰もが

— 24 —

あの日

葉山

美玖

その日私は内科にいた。

突然、ぐらっと来たので 看護師さんは注射を中止した。

慌ただしく、電話や携帯が鳴る中で、 お年寄りの患者の大半はぼんやりしていた。

外では女子高生が、揺れを怖がって泣いていた。 私もなんだか半分ぼんやりしている内に、

揺れはおさまった。

家に帰ると、

鏡が全壊していた。

ガラスの破片を片付けて、 夕食を済ませてお風呂に入っていると、

— 25 —

水が流れるプールみたいに揺れだした。

これはちょっとな、と思っていると、

シャンプーの横に置いた携帯がぴぴぴと鳴った。

「だいじょうぶ?」

彼は、たぶん自分が怖くなったから「そっちこそだいじょうぶ?」

メールをして来たのだ。

まったく大丈夫な雰囲気ではない。「こっちはものすごくゆれたけどだいじょうぶだよ」

「今度、そっちに見舞いに行くよ」

うん

「食事しような」

TVもろくに見ないで、ベッドに潜り込んだ。私は普通に嬉しかった。

本当はその頃、

怖ろしいことが沢山起きていた。

おじさんもおばさんもお爺さんも

私はひとりで勝手に幸せだった。小さい子も泣きながら津波にさらわれて行った。

ぽつねんと

消し忘れたTVの灯りの中で

原発がメルトダウンしていた。

だけども、私は

二人で食べるミートボールスパゲッティの事で

泣いている子供の声も知らずに頭がいっぱいだった。

私は静かな眠りに落ちた。

ベッドの外では、

一万五千人の悲鳴が闇に呑みこまれていった。



一旅・人・そして城―中山道を歩く4

们 熊 野 友

嗣

日本の歴史を左右した合戦というと、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の戦いを封 ・ 日本の歴史を左右した合戦というと、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の戦いを ・ 日本の歴史を左右した合戦というと、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の戦いを

関ヶ原は、江戸時代には中山道の宿場のひとつであった。とはいえ今の関ケ原

鎖させた。これにより、東国の兵権を掌握した大海人皇子が勝利し、天武天皇と

して即位することになった。すなわち、天下分け目の二つの争いの舞台となった

いう雰囲気の方が強い。ているので、宿場町というよりも古戦場を歩いていると町は、当然ながら関ヶ原の戦いを町おこしの前面に出し

東軍が挑みかかる格好で戦いの火蓋は切って落とされた ち、地の利を先に制して相手を待ち伏せしていた西軍に、 はさほどないもののやや深い谷を形成している。すなわ 西側の丘陵地帯に陣を構えていた。とくに、 ある。しかし、 くが陣取っていたのは、 り乱れて争ったのだから、たいていは広々とした草原の た福島正則隊と宇喜多秀家隊の間には藤古川が流れ、幅 ような土地を想像するものと思われる。事実、 ことになる。 「原」と付くうえに、両軍合わせて約二十万の軍兵が入 東軍を待ち受けていた西軍は、 扇状地が広がる盆地の平原部で 戦端を開い 関ヶ原の 東軍の多

川の河岸にあった。

川の河岸にあった。

川の河岸にあった。

川の河岸にあった。

川の河岸にあった。

川の河岸にあった。

川の河岸にあった。

川の河岸にあった。

川の河岸にあった。

関ヶ原の戦場は広範囲にわたっているので、中山道歩

ろまで戦域が広がっていたのかと驚かされる。 垂井宿へと至る。宿の入り口近くには一里塚が残ってい 垂井宿へと至る。宿の入り口近くには一里塚が残ってい がある。さらに関ヶ原の宿場町を抜けると、まもなく徳 がある。さらに関ヶ原の宿場町を抜けると、まもなく徳 がある。さらに関ヶ原の宿場町を抜けると、まもなく徳 がある。さらに関ヶ原の宿場町を抜けると、まもなく徳 がある。さらに関ヶ原の宿場町を抜けると、ましない。不

女将が一人で切り盛りしているようであった。 を将が一人で切り盛りしているようであった。 とのことだった。裏を返せば、今なお歩き旅の客本位のところ、暑くて歩くには危険だから、夏季は宿もお休みところ、暑くて歩くには危険だから、夏季は宿もお休みところ、暑くて歩くには危険だから、夏季は宿もお休みを中山道でも数少ない旅籠、「亀丸屋」があった。これは番井宿には、江戸時代から同じ屋号で営業を続けてい垂井宿には、江戸時代から同じ屋号で営業を続けてい

ったのだろう」と思わせるような旅館だ。ているだけ。まさに、「鉄道や自動車のない時代はこうだ鰻の寝床で奥に細長く、縦に並んだ部屋は襖で仕切られ細い連子の出格子が年代を感じさせる。建物はいわゆる宿場町特有の升形に面した玄関は、上がり框が広く、

の旅籠ならではの気遣いといえよう。れるという理由で、油ものは極力出さないそうだ。街道れるという理由で、油ものは極力出さないそうだ。街道た。もちろん女将の手料理だ。歩き旅の人には胃にもた食事は、居間という方が相応しい畳の部屋でいただい

れなければ店をたたむ。それが時流ならば仕方がないと 自分がやれるうちは続けるが、そのあとは、継ぐ人が現 まりの後継の問題についてであった。女将には息子が一 とにも気を留めず、 走様でした」と部屋へ退散しない限り、女将は一人しか 寂しさとで実行に移していない。 ればすぐわかることなのだが、事実を知るのが怖いのと 言っていた。今はどうなっているのか、ネットで検索す 人いるが、 んでしまったが、 んでしまった。最後にはおすすめの小説にまで話題が飛 いない私を置いて出ていくわけにはいかない。そんなこ 今から考えると当たり前のことなのだが、客が「ご馳 町の銀行に勤めていて、跡を継ぐ気はない。 印象に残ったのは旅館の維持と、お決 私は女将を相手にダラダラと話し込

所と化したのであろう。

ている。新幹線で東西を行き来する機会の多い人には、北に目を向けると、大雪をもたらす主の伊吹山が聳え

ではないと思われる。ただ、車窓から伊吹山珍しいものではないと思われる。ただ、車窓から伊吹山珍しいものではないと思われる。ただ、車窓から伊吹山彦の名物に、「伊吹もぐさ」がある。百人一首の伊吹山麓の名物に、「伊吹もぐさ」がある。百人一首のといえばこの伊吹山がもっとも印象に残るはずだ。といえばこの伊吹山がもっとも印象に残るはずだ。といえばこの伊吹山がもっとも写をは、山半は白い化粧を纏う。京都から木曽路に入るまでは、山半は白い化粧を纏う。京都から木曽路に入るまでは、山半は一切が見いものではないと思われる。ただ、車窓から伊吹山珍しいものではないと思われる。ただ、車窓から伊吹山珍しいものではないと思われる。ただ、車窓から伊吹山珍しいものではないと思われる。ただ、車窓から伊吹山珍しいものではないと思われる。ただ、車窓から伊吹山珍しいものではないと思われる。ただ、車窓から伊吹山珍しいものではないと思われる。

も良い経験である。
も良い経験である。
も良い経験である。

宿場の西端には東海道本線の醒ヶ井駅があり、駅前ではかい時期にそちこちで小さな白い花を水面に咲かせる。内を流れる地蔵川には梅花藻(バイカモ)が自生し、暖場は、今なお清き水の流れをもって知られている。宿場場は、今なお清き水の流れをもって知られている。宿場相原宿から一時間ほど歩くと、次の醒井宿に着く。『日柏原宿から一時間ほど歩くと、次の醒井宿に着く。『日

柏原宿には、安藤広重の『木曽街道六十九次』にも描

せて楽しんでもらいたい。関ヶ原の古戦場に関心がある方は、ぜひ街道歩きと合わ上げた五宿は東京からでも日帰りで歩くことが可能だ。よので、新幹線を利用すれば、今回取りる。隣駅は米原なので、新幹線を利用すれば、今回取り「平成の名水百選」にも選ばれた湧水を汲むこともでき

分かれ目を体感することは容易ではない。を食べて歩くことは難しいので、実際にこうした東西のることがある。ただ、道中すべての宿場でうどんや雑煮煮の角餅と丸餅など、しばしば関西・関東の境目とされところで関ヶ原というと、つゆの醤油味と出汁味、雑ところで関ケ原というと、つゆの醤油味と出汁味、雑

民と、勝手ながら自負しているところである。 見と、勝手ながら自負しているところである。 見と、勝手ながら自負しているところである。 見と、勝手ながら自負しているところである。 見と、勝手ながら自負しているところである。 見と、勝手ながら自負しているところである。 見と、勝手ながら自負しているところである。 見と、勝手ながら自負しているところである。 見と、勝手ながら自負しているところである。

な目的なのである。じっっくりと肌で感じるのが、街道歩き旅のひとつの大き

ちちぶ文学散歩

野口

正士

秩父の神社、仏閣に点在する歌碑・句碑の本ならず、山野に埋もれた碑を探して三十のならず、山野に埋もれた碑を探して三十のならず、山野に埋もれた碑を探して三十のという。

た詳細な地図が旅情をさそう。 荒川・大滝・吉田・両神、旧町村名が載っ碑、万葉集から芭蕉・虚子、兜太の句碑、 牧水・雨情・啄木・賢治・金田一春彦の歌

B5判・二四○頁

二五〇〇円(税別

直接申込み下さい送料無料。弊社に

ことができるかもしれない。そうした土地ごとの特徴を

他にも人によって、

東西のいろいろな違いを発見する

光太郎を巡る人々連翹忌通信①

山 弘 明

小

まれていたそうです。 彫刻家・詩人の高村光太郎は、昭和三十一年四月二日、 原(通称・乙女の像)制作のため、花巻郊外太田村の山 像(通称・乙女の像)制作のため、花巻郊外太田村の山 外屋から上京したのが同二十七年秋。像の完成後はまた 小屋から上京したのが同二十七年秋。像の完成後はまた 山に帰るつもりでしたが、健康状態がそれを許さず、ご く短期間帰ったことはあったものの、結局は中野のアト リエが終の棲家となりました。生涯冬を愛した光太郎の 単本が終の棲家となりました。生涯冬を愛した光太郎の 最期を飾るように、前日から東京は季節外れの大雪に包 まれていたそうです。

レンギョウの一枝。これは中野のアトリエの庭に咲いて匠になる祭壇に棺が置かれ、その上にはコップに挿したの像を含む一帯の設計を担当した建築家・谷口吉郎の意葬儀は四月四日、青山斎場で執り行われました。乙女

つづいて高村さんの思ひ出を語りあひたいと存じます」 郎の一周忌ですが、この日を連翹忌となづけ、 翹の咲く季節が巡つてきました。四月二日は故高村光太 と記され、また、草野による案内状には、「今年もまた連 共通にあざやかにすがすがしい黄色なのも一奇である」 像』には、「智恵子のものをもしレモン忌と呼ぶならば光 野心平でした。前年に書かれた佐藤の『小説高村光太郎 布を敷いただけの即席会場に五十人ほどが集まりまし ています)。葬儀委員長は武者小路実篤。武者の他に梅原 ら株分けされたレンギョウが当方自宅兼事務所で根付い 太郎のそれは連翹忌といふべきでもあらうか。二つとも た。「連翹忌」の名付け親は、発起人だった佐藤春夫や草 た。リンゴ箱に板を渡し、テーブルクロス代わりの白い アトリエで、光太郎を偲ぶ第一回連翹忌が開催されまし 龍三郎、 った故・中西冨江さんの回想に記されています(そこか いた生前の光太郎が好きだった花で、アトリエの家主だ そして一年後の四月二日、 尾崎喜八、草野心平らが弔辞を読みました。 光太郎の終焉の地、 中野の

明治末に光太郎と智恵子が訪れ、名物の氷菓(アイスク楼に会場が落ち着いて、今日に至っています。ここは、場が変遷しつつ連綿と続き、平成十一年から日比谷松本以後、一ツ橋如水会館、銀座資生堂パーラーなどに会

とあります。



リーム)を食べたり(詩「涙」に描かれています)、光太

当会顧問・北川太一先生をはじめとする生前の光太郎を りした、ゆかりの西洋料理店です。 郎も参加した芸術至上主義運動「パンの会」が開かれた ご存じの皆さん、草野など光太郎と交流のあった人物ゆ 今年で六十一回目となった連翹忌。光太郎血縁の方々、

> 地でのイベントや出版関係などに輪が広がっています。 めて行こうと存じます。 その名は忘れ去られてしまいます。そうならないよう努 らに時代へと語り継ぐ努力をしていかなければ、やがて であっても、後世の人間がその業績を正しく理解し、さ 智恵子を敬愛していること」のみです。新たな皆様のご そして、当方もそうですが、単なる光太郎智恵子ファン を賜っています。ここで様々なネットワークができ、各 子を取り上げられている皆さんなど、七十余名のご参加 かりの各位、全国の文学館・美術館関係者、出版・教育 参加をお待ち申し上げております。いかに優れた芸術家 も多数参加。参加資格はただ一つ、「健全な精神で光太郎 に携わる方々、音楽や舞台などの二次創作で光太郎智恵

主催)ことを書き添えておきます。 開催されています(ともに花巻高村光太郎記念会さんの 祭」、午後からは光太郎ゆかりの松庵寺で「連翹忌法要」が 午前中に光太郎が七年間を暮らした山小屋では「詩碑前 なお、光太郎第二の故郷ともいうべき花巻でも、同日、

高村光太郎連翹忌

運営委員会代表

一度あることは

崎 と志子

秋も半ばの頃、毎週一回の囲碁教室では午後一時から
 秋も半ばの頃、毎週一回の囲碁教室では午後一時から

おいしくなかった。

した身体が動かない。 ここで死ぬのかと思った時、テーブルの下に潜ろうとおかしい、きちんと飲みこんだつもりだ。 が出てくる、苦しい!

い、そっと吐き、そっと吸いをくり返したら、息苦しさ空気が少し動くのを感じた。咳が出ないようにそっと吸思わず息を止めたら、咳が止まった。同時に胸の中で

なかったが、お餅が詰まった人の新聞記事など思い出し、と、左右に人はいなく離も気付いていないようだ。む力が弱くなったと思うとなさけない気分になった。だがすぐに囲碁の対局が始まって、忘れてしまった。だがすぐに囲碁の対局が始まって、忘れてしまった。だがすぐに囲碁の対局が始まって、忘れてしまった。と、左右に人はいなく誰も気付いていないようだ。と、左右に人はいなく誰も気付いていないようだ。

科医のK先生であった。

科医のK先生であった。

本する習慣になっていた。セルフサービスで、カップをう。終ってから喫茶室で二、三の友人とお茶を飲み一休のがよりででででから喫茶室で二、三の友人とお茶を飲み一体であると、

です」と言った。そして、が、K先生は、静かにカップを皿において、「それは窒息詰まった話をした。他の二人は驚いてエーッと私を見たコーヒーを飲みながら丁度良いと思って、昨日の息がコーヒーを飲みながら丁度良いと思って、昨日の息が

来なくなるのです。気をつけないといけませんね」狭いから、そこに食物がつまると気管が押されて息が出「食道は気管のそばにあって、気管支と重なる所は少し

るのを思い出し早速予約した。 と、すらすらと説明された。みんな納得してうなずいた。 だが、私はこれからのことを考えると気が重くなった。 ふと、K先生の娘さんが同じ内科医で時々受診してい

分で……」 トントンと背中や胸を叩けばいいのですよ。こうして自 た事を話し始めると話なかばで笑い出して、 した訴えを熱心に聞いて下さる。だが、今回息のつまっ 「大丈夫、私の母などしょっちゅうですよ。そんな時は、 K先生に似て小柄で色白の先生は、毎回私のくどくど

と、御自分を叩いてみせて下さる。 本当?」

一えっし

い出して、私も笑った。 この間、それは窒息です。とおっしゃったK先生を思 だがあとになって、K先生の場合は私と違って単にむ

老いを感じたが、次第に忘れていった。 それにしても自分も背中を叩かれる側になったと改めて ている人には初めは区別出来ないのではないかしらと。 せて咳になったのではないか、と思い返した。そばで見

を一冊買い、デパートの食堂で昼食をとることにした。 りで本屋をのぞいた。あちこち見て楽しんでから文庫本 冬になってある日、デパ地下で買物をしたあと久しぶ

> てしばらくしてから、携帯電話がないのに気がついた。 めながら私は小さな幸せを感じていた。だが食事を始め 何時もポケットに入れているのに見あたらない。 好物の牡蠣フライのランチを前にして、新しい本を眺

胸の圧迫感、ハッと立ち竦んだ。 たべて、立ち上がろうとしたその時、 たのだ。本屋に戻るより仕方ない。急いで残りの御飯を 本を買う時、時間が気になってカウンターの上に置い つき上げるような

いう言葉が頭をよぎっていった。 少しずつ下がってゆき、息は詰まらなかった。 「またかー」と思ったが今回御飯が柔かかったせいか、 ホッとして歩きだしたが、二度あることは三度あると



Eggs

Kuriko Maeki

When
these eggs sitting in my fridge
right now
were purchased
he was still alive.
Let me partake one egg today too.
When all the eggs are gone,
his poems will be but my memory.

When
these eggs sitting in my body
right now
were bestowed,
all my family was still alive.
Let me release one egg this month too.
When all the eggs are gone,
my life will be but my own only.

When
these poetry eggs sitting in my notebook
right now
were noted,
those memories were still alive.
Let me complete one poem today too.
When all the eggs are hatched
my poems will be but handed to everyone.

卵

マエキ クリコ

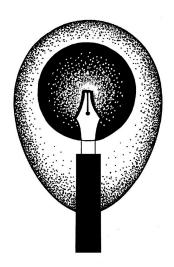
今、 冷蔵庫の中にある 卵パックを買った頃、 あの人はまだ、生きていた。 今日も一つ、頂きましょう。 卵がみんな無くなる頃、 あの人の詩は私の思い出になる。

今、 私の体の中にある 卵たちを授かった頃、 家族は皆、生きていた。 今月も一つ、見送りましょう。 卵がみんな亡くなる頃、 私の命は私だけのものになる。

今、 私のメモ帳の中にある 詩の卵を書き留めた頃、 思い出はまだ、生きていた。 今日も一つ、書き上げましょう。 卵がみんな孵る頃、 私の詩はみんなのものになる。 Since
the poetry eggs
and the poems born
have no expiration date,
I will fertilize them until I die
and meet my readers after I die.

You listening to this poem right now, are my family.

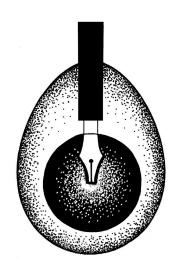
You reading this poem, right now are my company.



詩の卵にも 生まれた詩にも 賞味期限などないから、 死ぬまで私は、受精を続け、 死んだ後でも、読み手に出会う

今、 この詩を聞いている そこのあなたも私の家族。

今、 この詩を読んでいる 見知らぬあなたも私の仲間。



Gathering Time

After an absence of nearly a year My best friend and I were reunited As if our time apart was a joke We picked up Right from where we left off

As a tread is pulled,
A running stitch gathers
Connecting stitches here and there
Likewise
As special ones reunite,
The time axis warps
Connecting moments spent here and there

How liberated are dancing legs Inside a skirt so fully gathered

As a string is pulled,
A stage curtain opens
Gathering thread-made folds here and there
Likewise
As God pulls the string,
My life and
The history of this world
Will open up a new stage

How promising is an emerging stage Behind a curtain so fully handled

時間軸マジック

一年ぶりに親友に会った 離れていた時間が まるで無かったかのように、 最後に別れたところから また始まる二人の時間

並縫いの糸を引くと、 ポツポツと並んだ点線が ギャザーを寄せながら、つながる 同じように 特別な人と会うと、 ポツポツと途切れた接点が 時間軸を波打たせながら、つながる

たっぷりと膨らんだスカートの中で 踊る足のなんと自由なことよ

カーテンの紐を引くと、 糸で寄せられた襞と襞が さらに重なりながら、幕が開く 同じように 神様が紐を引くと、 私の人生も この世の歴史も 新しい幕を開ける

しっかりと手繰られるカーテンの向こうに 現れるステージのなんと楽しみなことよ

LGBTの唄

The Song of LGBT

Kouichi Katsuhata

- L レッツGO! ログハウスへ
- G ギター片手にカントリー
- B バターたっぷりブレッキーさ
- T テラスでテイーとトーストを
- L ライオン満腹 もう昼寝どき
- G グリーンランドで さあかき氷
- B ボーダーなんてもう御免
- T touch me! 世界はつながるさ
- L ルクセンブルクで 語ろう愛を
- G ドイツビールで さあ乾杯
- B ブリユッセルで チョコつまみ
- T トリノでピザとスパゲッテイ
- L ロングへアーが 似合う君
- G ギャザーできめた パンタロン
- B B級グルメでも 愛は永遠
- T T-シャツに レインボーロゴ
- L ライプツィッヒの 教会がゴール
- G ゲーテ・シラーさん こんにちは*1)
- B ベルリンに来て 心に壁が
- T Total verrueckt! *2)

- L ロンドンのカフェ 君との出会い
- G グラスゴーでの 悲しいケンカ
- B ビッグベンから 鐘の音
- T トラブルはいつも 霧の中
- L 月桂樹 (ローレル) の誇り ローギアーで
- G グレイス (優美) な心で グレイトに
- B バンダナ揺れる オンボロ車
- T タイトフィットな 夢心地
- L ロンリーでなく アローンな二人
- G ギガはいらない 2バイトでいく
- B ベストはいらない ベターの笑顔
- T total バランス 紡ぐ愛
- サビ1) 夢語れ Ladies & Gentlman

Bravo! & Team LGBT

サビ2)明日へ Ladies & Gentlman

b e carefull & **T** rumpism,

no more!

- *1) こんにちは、ドイツ語で Guten Tag
- *2) 日本語で 何てこったい! こりゃたまげた!
- LGBT is an initialism that stands for......

L: Lesbian G: Gay

B: bisexual T: transgender

山手線環詠・東京残照

勝畑

耕一

東海道五十三次手始めは重治の詩

「雨の降る品川駅」

江戸以前より稲作で生き 農民は五反の地をば耕して 今や変貌ニューコンコース 大崎といえば昔は明電舎

> 誰が気にする午後の原宿 おじさんに奇妙珍奇な服装を

遠い昭和の世代のみ知る 代々木とは共産党の符牒なり

コマ劇場跡地のビルの谷間から ゴジラの巨頭はいこんにちは

目黒の街のドレメ学園

%

亡き妻のかつて通いし学校は

— 44 **—**

恵比寿を降りて麦酒一献 駅メロに「第三の男」流れをる

笑顔自撮りのスクランブルは いつからか渋谷名物となりにけり

ゴールデン街酒小屋「ダンさん」 新宿にラグビー好きが集いたる

懐軽く淋さに満つ

大塚の老舗「江戸一」素通りす

高校と予備校を入れ四年なる

新大久保に挫折と悔恨

高田馬場の空を越えても 原子力讃えしアトムの理想郷

駒込のクラナッハという喫茶店

あの日のR子も今は老いたり 二十歳の頃巣鴨散策しておりし

ドイツ中世の画家を冠して

%

賢治・光太郎熱く語りき 大学時代下宿田端の友がいて

婦女子に尽くせし成瀬仁蔵 目白の地日本女子大創設は

谷根千の路地日暮里の鐘 「だんだん」に猫のんびりと昼寝して

我らアジアン劇場と呼ぶ 池袋は烈しく言語飛び交いて

千代田線わが師わが友住む街へ

乗換はいつも西日暮里

*

% 3

ホテル脇には焼き鳥「ささのや」

ダサい駅?鶯谷の憩いの場

幼き我の佇むアルバム

かつて父母と散歩したるは池の端

***** 7

夕陽浴びたる駅舎を眺む

東京駅大丸ビルの「すし鉄」より

小春日の有楽町に赴けり

泰明小前で古山拓展

% 8

上野中学横断の幕

歌声と笑顔と望みの頭文字

上野界隈郷愁の町

% 5

アメ横にケバブの店も軒連ね

新橋でなく烏森駅

%

しゃぶしゃぶの後はや桜散る御徒町見合いの人と出会いたり

場所の違いを父に笑われ古本を探し求めし神田駅

%

待合わせ場所蒸気機関車 ガード下軒を並連ねる居酒屋へ

※ 10

出発はここ浜松町駅

羽田まで海路も跨ぐモノレール

西郷と勝・明治への架橋田町駅江戸開城の石碑あり

¾ % 3 わが師・北川太一 わが友・曽我貢誠 アンケートで山手線中最もダサい

% 5 駅となった

% 高校の頃神田の古本屋街をめざし 京成線で幼少時よく訪れた

を専攻したという。 大学では古代ギリシャ・ローマ史 **%** 8 **%**

古山拓は英国で学んだ水彩画家

島岡明子さんと 神田を訪れた

% 中学の友人、三澤誠君と二十年ぶ **%**

明治には烏森駅だった

私案をいえば赤穂浪士駅 山手線に高輪あたり新駅か

> **%** 2 **%** 駒込の喫茶店はすでにない ドレメ学園は現在の杉野女子大学

— 47 —

ザラ・キルシュ 訳詩集

勝畑耕

勝

猫との生活

とうに国境はなくなったというのに外の車のナンバーをメモしている悪かれたように目つき鋭く

長人が誰しも猫好きなのは 言うことを聞かないのに 言うことを聞かないのに 十一月の雨の日には かにボロ布で居眠りもする そんな時には何かの合図なのかぶるぶると体を揺らす仕草

隣人は壁に囲まれて

日本の戦後詩人たちには想像もつかないだろう。旧東ドイツでは密告者ないだろう。旧東ドイツでは密告者に「チクリ」代が払われていた。をいまだにネタ探しが習慣になってもいまだにネタ探しが習慣になってもいまだにネタ探しが習慣になってもいまだにネタ探しが習慣になってもいまだにネタ探しが習慣になってもいまだにネタ探しが習慣になってもいまだにネタ探しが習慣になってもいまがした。かなかった。なお冒頭の詩人はボードレールなどを指すという。

倦怠

めげることなき強靭な花々植垣に混じる灼熱のバラ垣根の向こうには物静かな隣人

再び咲くことが叶うこの花々ああ、虚しい望みをして

何かやわらかに刻まれる時の音

えに、現実の自己は倦怠感につつま来年も茂る樹木の強さや美しさをま

れているのか。

北の大地

そんな日、長年親しんだ男の名をパタパタと風の音しかきこえない

オークの樹下に葬った

誰が何と言おうともう気忙しい生活にはおさらばしてその記憶を消すために

北限の地に向かおう

ドイツ北部の荒涼とした大地は、詩詩人は都会を離れ、男(夫?)との詩人は都会を離れ、男(夫?)との

るのか。

人の内面を蝕む空虚さに呼応してい

:

日曜日

目差しの空の下 少ない

私は日がな一日ずっと

エリック・クラプトンを聞いているすり減ったレコードで

明るい気分にさせてくれる一方それはこの荒んだ地球の哀しみを

自分に向けさせる気分にする充填した回転式銃(リボルバー)を

ケルト風に

気にくわない世界とは

鳥の飛ばない 牛どもこの私にとって 夏

意気地のない 男たち

じゃああんた、これでさよならね!意気地のない

け、むしろ…したい、の意がある。 原詩の最終行にあるlieberに呼びか

と、詩人はこの頃三○代後半か。クラプトンが一九七○年代とするレコードなのか、わからない。

年代記を編む

暗

闍

墨のように輝くインク 万年筆の柔らかなペン先から

震える手から あちこちに 繰り返しの作業 侘しい気持ち

浮いた話とは とんとご無沙汰 昼も夜も紙をうんざり眺めて

だから手は動いても、踊らぬ心

黄 色

岩壁の割れ目に夜まだ浅く その嘆きの歌は秋の哀しみ 澱みなき流れの暗さ 睡蓮には物珍しい黄色

> 野生のガチョウは嬉しさ余って 仲間が周りにいるとわかれば

私はといえば窓から窓へ 夜中でも右往左往

嵐が揺らす樹々に耳をすます

落ち葉が吹きつけてくる 突然ドアに次々と

お笑いぐさ

頭がゴツン だから開けた (玄関の) ドアに

激しく風が吹きつけてきて

過ぎ去ったということか

— 51 —

灰色猫と白猫

灰色猫と白猫アパートの角からついてくる

古い文献で手あたり次第

草を刈るにはちょうどよい星が青白い夜の翌日は晴れ読み漁った。

空へ吹き抜ける風絨毯に星を織り込むと

イチイの枝とともに

仕事部屋にさす夕暮れの明かり

そんな遥かな地に思いをはせる。雪に埋もれているのは私

をまとめている。

略歴メモ

シュ(一九三四~二〇一五)と結婚、夫とともにベッヒ ころユダヤの名、ザラ(サラ)に改名、その真意は分か け、教鞭もとる。数々の詩集を出版し、晩年は、デンマ クラブの奨学金でローマに滞在、帰国後はグリム兄弟賞 ベルリンへの移住許可を申請、受理される。旧西独ペン を始めた罪で党と作家協会を締め出される。その為に西 アマン(一九三六〜)の市民権剝奪に抗議し署名活動 ャー学院で文芸を学び、詩を発表。夫妻で芸術賞も授与 らない。自然への関心が高くライプツィッヒ近郊のハレ ト・バーンスタインとして旧東独に生まれた。二十歳の モーリッツをもうける。一九七六年、友人ボルフ・ビー カール・ミッケル(一九三五~二〇〇〇)との間に男児 八年、東ベルリンに居を構えジャーナリスト、翻訳家と し、東独作家協会の会員になるが八年後に離婚。一九六 で生物(植物)学を修め、二五歳のときライナー・キル して活躍、ラジオ局にも関わる。またドレスデン出身の (一九九六)、ジャン・パウル賞 (二〇〇五) などを受 (二〇〇一) で短歌を思わせる、題のない十行未満の詩 クと国境を接するドイツ北部に住み、詩集『白鳥の愛』 ザラ・キルシュ(一九三五~二〇一三)はイングリッ

詩歌三評

結城を歩き探すもの田村 勝久 詩集

(詩誌「シーラカンス」)
(詩誌「シーラカンス」)
(詩誌「シーラカンス」)

光る理系の眼

武子和幸

田村勝久さんの詩集『結城を歩き探すもの』(文治堂書店)には、田村さんが高校生の頃から現在に至るまで書きためてきた420編の中から40編を精選して収めてある。それらは私製本にして発表されてきた。40年余に渡る。それらは私製本にして発表されてきた。40年余に渡る。それらは私製本にして発表されてきた。40年余に渡る。それらは私製本にして発表されてきた。40年余に渡るが記在しているのは否めないが、そこに共通して光作品が混在しているのは否めないが、そこに共通して光にはが混在しているのは否めないが、そこに共通して光に、環境、関心、手法等の変化によって、様々な傾向の代、環境、関心、手法等の変化によって、様々な傾向の代、環境、関心、手法等の変化によって、様々な傾向の代、環境、関心、手法等の変化によって、様々な傾向の時間が表す。

かった。 してこの人は理系の人の感受性を持っているなと直ぐ分してこの人は理系の人の感受性を持っているなと直ぐ分に投稿された詩篇「壊れるということ」であった。一読年2月に、私が選者をしている茨城新聞の投稿欄「詩壇」私が、初めて田村さんの詩に出会ったのは、2011

結城文学の会」会員

生きながら壊れていく壊れながら生きていく

略

死んだあとでも壊れ続ける生まれる前から壊れ始める

まだ壊れ続けている全部壊れても

〈またお会いしましょうね〉 〈大丈夫よ 私も壊れたから〉 〈ごめん 僕壊れてしまった〉

が世界の崩壊と照応してこの作品になったと思われるが世界の崩壊と照応してこの作品になったと思われるという物理的現象に執拗に焦点を当てて、世界の本質としての終わりのない崩壊現象をぐいと掴み取ってする。私達の肉体も、細胞レベルでは壊れながら生き、いる。私達の肉体も、細胞レベルでは壊れながら生き、はる〉の詩行に至ったとき覚えた戦慄は今でも忘れられない。原子炉の炉心溶融を連想させたからである。この作品は、制作年からみて作者自身の大病に対する危機意識がモチーフになってとき覚えた戦慄は今でも忘れられない。原子炉の炉心溶融を連想させたからである。この作品は、制作年からみて作者自身の大病に対すると思われるが世界の崩壊と照応してこの作品になったと思われるが世界の崩壊と照応してこの作品になったと思われるが世界の崩壊と照応してこの作品になったと思われるが世界の崩壊と照応してこの作品になったと思われる

年度の前期賞に推薦した。

エル人間〉 の中から」である。そこでは人間がほとんど滅亡に瀕し びる。それがある時はユーモラスに、またある時は乾い の次元で作者の視線は現代にたいする痛烈な批評性を帯 見つめられる世界は、無機質的な科学的世界であり、そ を見つめる彼の眼は理系の眼であり、そのような視点で 間的感情は希薄であり、他の多くの作品の中でも、人間 交渉し、或る決まったルールによる生理的反応によって 世界になって展開してゆくのが、この詩集の特徴だろう。 たウィットになり、さらに拡大してアニメ的、ゲーム的 象という視点からのみ見つめられ、ロボットのように人 そのような作品の中でも、傑作は、 この作品に現れる誰とも分らぬ男女は、 、その結果他の動植物が進化し、 〈瓜人間〉 などに人間化し、彼らは全く対等に 〈トカゲ人間〉や〈カ 比較的長い詩「繭 物理的崩壊現

変身しながら、種族を維持する荒唐無稽な未来世界が描

評的な眼が光っている。 かれるが、そこには地球の環境的危機と進化に対する批

者の逃れられない理系の眼を何とかしたいというやるせ わっているが、愛に対するゴミの 燃えない方に分別されるという強烈なウィットの連で終 ない思いが感じられて切ない。 トはきわめて知的な手法であり、この作品の裏側には作 また、「誕生日にプレゼントする」では、プレゼントを った恋人の返答が幾つか書かれ、最後に愛を贈ったら、 〈分別〉というウィッ

選んだ無意識の動機ではないかと思われる。 りあげる美に対する憧れこそ、理系の彼が詩作への道を 集の中でこの作品が一番好きだが、職人が厳密正確に作 海水の物質を組み替えながら布に変え、薄くて軽い、青 本の鋭い針に変化し、目玉のところから水の糸を引いて、 たいなものしか作れなかったという詩であり、私は、詩 いスカーフを作りあげるのを見て、私も試みるが雑巾み ではないかと思われるすぐれた作品である。サンマが一 海を縫う」はそのような作者の思いを反映しているの

を心がけていくのではないかと期待している。 これからはこの方向で全体的に統一性のある作品作り

(日本詩人クラブ会長

途轍もない想像力と閃きに瞠目

和 代

関

旨に。 るかを新川和江先生とご一緒に語り合いましょう~を趣 どなたでも心を開いての語らいの中で、どのように生き 集い」第一回目がスタート。 き図書館オープン。その秋十一月七目「センダンの木の 平成十六年五月十五日、結城市民情報センター・ゆう ~詩を書く人、書かない人、

杯の私。こんな気持ちになるのは不思議でたまらないの になっていて、 た。自筆によるユニークな挿画が表紙、 な立派な第一詩集を上梓されたことが何より嬉しかっ 年もご一緒しているうちに身内感覚になり、 を携えて、常連として活躍されている。月一度だが十数 回を迎える中で、途中脳出血を克服しながらも毎回作品 てあり優しい人柄の中に、家族愛、郷土愛に満ちた詩集 田村勝久さんは第九回から参加。この四月現在 詩集発刊の強い後押しをして下さった、 発行者勝畑耕一様には心から感謝の気持ちで一 何をさておき寡黙な詩人田村勝久を理解 文中にちりばめ 編集者曽我 今回この様 四四

だが、この詩集を手にした瞬間そう思った。

きてくれる。どうにも掴みどころのない、不器用な彼 まとめ上げていたりする。それでも熱心に作品を書いて のご助言はさておきとにかく田村ワールドですよね、で 遥か高レベルで、とても追いついていけない。新川先生 ちりばめられていて難解。私たち「センダン」仲間より を持っていて瞠目するばかりだ。 (ごめんね) だけれど、途轍もない想像力と閃き、詩心 理系出身の田村さんの作品は、元素記号が星のように

思わず微笑んでしまった。これは作者の貴重な原点であ 四〇編が収められている。巻頭詩「手のあるコメット」 詩集には八冊の私家版詩集四二〇編の中から厳選した 高二の時の作品。こんな頃から狂って?いたの、と

海王星の沼の魚

縞のシャツがよく似合う 大きな大きなジュピターちゃん

匹三百二十両

百年ぶりに空に鳴く 火星鳥が現れた

天王星では神様が

すごろくやって遊んでた

冥王星のかき氷

甘くて冷たいおいしいよ

ミロのビーナス作ってた 金星人が作ってた

地球じゃ俺が狂ってた 地球じゃ俺が狂ってた

土星の輪っかを盗みにね 手のあるコメット飛んできた

水星の雨は鉄の雨 空にどんより赤い雲 手のあるコメット

— 56 —

ぞ」と入院中の作品は、病の中でも詩作を忘れない詩人 印象深い作品はたくさんある。「こんなのしか書けない

なってうれしい。」と讃えた詩が「壊れるということ」で 詩」がそれを物語っている。茨城詩壇初投稿で選者武子 日本大震災またぎの形になった、「茨城発 3・11と私の 魂に感動した。確かに何かを持っている人、と思う。東 「非常に衝撃的な作品で、評者にとっても勉強に

壊れるということ

壊れながら生きていく 生きながら壊れていく

生きることを恐れながら 生きている 壊れることを恐れながら

どんどん壊れていく 少しずつ壊れいく

死んだあとでも壊れ続ける 生まれる前から壊れ始める

「さっさと食べてしまえばいいのに」長いタイトルなの

壊れていく

まだ壊れ続けている 全部壊れても

(ごめん (大丈夫よ 私も壊れたから) 僕壊れてしまった〉

〈またお会いしましょうね)

壊れ続ける見えない世界の

システムのなかで 「茨城新聞 2011・3・15

掲載より

どまっていると思う。徳川埋蔵金と三日月橋が出てきた 文字にするのが彼の詩作法のようだが、とにかくダラダ だったの」で終わってしまう。頭に浮かんだ言葉を全て たので/弘経寺にむかうことにする〉では、「あら、そう め事ばなしだったり、最後は、〈城跡の桜は物足りなかっ ので何か夢があるのかと心待ちするが、子供会総会のも だが標題作「結城を歩き探すもの」は、散歩紀行文にと 読み手の様々な受け止め方があっていいわけだけれど。 ラ長すぎるといつも思う。何処で詩になるの、何に感動 したのとはぐらかされる。これは私の勝手な解釈であり、 作品「第二次結城合戦」の想像力には脱帽するばかり

らせるのかが楽しみでもあり、その姿は「センダンの木のできそうな「窓猫」などなど、心に残る作品だ。 集い」での新川先生の教えの魂をムチに、調教師となっか忘れ難い郷土愛と人間臭い田村さん。「センダンの木のか忘れ難い郷土愛と人間臭い田村さん。「センダンの木のからればには生まれ育った懐かしい想いが一杯ある。何処まった」「なお君と手をつなぐ」そしてメロディーが浮かに、本文七行、ここでホッとする。「母は飛んでいってし

(センダンの木の集い代表)

の集い」我々仲間の誇りでもある。

結城から歩き始めた詩人

曽 我 貢 誠

いに詩人田村勝久はこんなことを語った。「詩を書き始めたきっかけは何ですか?」という私の問

降ってきた。大粒の氷の塊である。口をあんぐり開けて確か小学校に入って間もない頃だと思う。突然、雹が

て残っていた。 しかし言葉は全く出てこなかった。その時の感動なのか、 しかし言葉は全く出てこなかった。その時の感動なのか、 てもいられず家に戻りこの体験を言葉に表そうとした。 それとも自然の不思議を思ったのだろうか。いてもたっ 見ていた。この天からの贈り物に素直に感動していた。

たきの中から第一詩集『結城を歩き探すもの』を出版ししきものを書き始める。今回、今まで四○○編以上書いただ心の奥底に突然天から舞い降りてきた雹の不思議体ただ心の奥底に突然天から舞い降りてきた雹の不思議体けではない。小学校も中学校も全く詩を書かなかった。

様々な文化を生み出した街である。なぜ作者はこの題名見て栄えた。紬や箪笥などの地場産業だけでなく町人がは「結城紬」くらいの知識しかなかった。しかし、源頼換え二つ目の駅が結城である。結城といえば私の脳裏には「結城紬」くらいの知識しかなかった。しかし、源頼換え二つ目の駅が結城である。JR小山駅で水戸線に乗りの会に出席するためである。JR小山駅で水戸線に乗りの会に出席するためである。なぜ作者はこの題名が、東京においる。とは、東京においの地域である。なぜ作者はこの題名が、東京においる。とは、「はいいの題名のでは、「はいいの題名のでは、「はいいの題名のでは、「はいいの題名のである。なぜ作者はこの題名が、「はいい」といい。「はいいの題名の理解を表現している。」といいの題名のである。なぜ作者はこの題名は、「はいいの題名のである。なぜ作者はこの題名が、「はいいの題名のである。」など作者は、「はいいの題名のでは、「はいいの題名のでは、「はいいの題名の理解を表現している。」といいる。

いう。今では結城市内の小学校にはどこにもセンダンの ンの木の下で、よく本を読んでいたところから取ったと の意味は、新川さんが小学校のころ学校にあったセンダ 詩人・新川和江さんの生まれ故郷である。「センダンの木 だ。駅前の情報センターの一室には十数人ほどの人が待 ら育んできた故郷結城に対する限りない愛情があるの 間以上をかけて参加している。そこには生まれたときか 立市に住んでいる。 の街が、詩人田村勝久を育てたのであろう。今、彼は日 分が住んでいたというだけでなく、文化の香りのするこ 思いと誇りがあるからである。雹を見た時の原体験や自 木が植えられているという話を聞いた。 る。今回で百五十回に迫る回数を誇るという。結城市は っていてくれた。詩をこよなく愛する人々の集まりであ にしたのか。それは だが毎月一回開かれるこの会に二時 「結城」という街に対する限りない

和やかな雰囲気で会は進行した。前にしたそうだ。その精神があったためだろうか。終始に立ち寄れることから、新川さんの提案を採り入れて名どいろいろ面倒になる。「集い」なら誰でもいつでも気軽「集い」の意味は、「会」にすると規約など約束ごとな

れて来てからである。黄色い表紙にパソコンで打たれての紹介で、十年ほど前から手作りのA5判の詩集が送ら一田村氏をはっきり意識するようになったのは、ある人

派な詩集ができたことを素直に喜びたい。ちんとした形で詩集を出すように勧めた。今こうして立われた。昨年夏、本人に会う機会があった。その折にきいた夥しい詩の数々。至る所にある不思議な絵に心を奪

常持っていたのだ。読んだ後に何ともいえない余韻を残 ける真実を見据えている。まさに「生まれる前から壊れ ということは彼の日常の中で、生きて、死んで、 なぜなら倒れてから猛烈な勢いで詩を書き始めたと聞い その闘病の中でこの詩を書いたのだろうと思っていた。 九年十一月脳出血で倒れ、近くの病院に運ばれた。当然 識して書いた詩だとずっと思っていた。あるいは二○○ 後に茨城新聞の詩壇を飾った。田村勝久のデビュー作と もなく、日々の日常の中で彼はこの詩を書いたのである。 た。」私は衝撃を受けた。自分の病気でもなく、 分が倒れる前だと思います。自然とこの詩が浮かびまし ていたからである。田村氏は語った。「いいえ、確か、自 いった方がいいかもしれない。私はこの詩は、震災を音 の衝撃的な言葉から始まるこの詩は、 やはりこの詩集の代表作は 「壊れながら生きていく 死んだ後でも壊れ続ける」そのような感性を日 生きながら壊れていく」こ 「壊れるということ」であ 東日本大震災の直 大震災で 壊れ続

彼は「センダンの木の集い」の常連として、そして茨

す作品である。

た。「窓猫」はそんな作品である。心地よい響きがある。の出逢いの中で全く傾向の違う詩も書くようになってき城新聞に常に投稿しながら腕を磨いてきた。様々な人と

ひるのねこ眠いよ眠い

ねむいねこ 窓辺に向かう

桑と絹の里 月は朧に 日光連山 心静める 結城身に着け 佇む女

いる。結城紬を基本としてユネスコ無形文化財の登録を風光優美な結城の紹介と紬を織る女の悲哀を表現して

いた。 筑前黒田藩の槍と共に有名な槍だ。彼はこの槍の歌を書槍の一つ、御手杵が収められている。黒田節に出てくる唱歌になるのは間違いない。結城美術館には、天下三名目指しているようだ。誰か作曲してくれたら、結城の愛

納める鞘で 搗き上げる匠が鍛えた 鬼怒の槍餅を搗くなら 御手杵で

とりあえずは黒田節で歌うらしいがこれも誰かに作曲筑波に月呼ぶ 結城節

してほしいそうだ。

ともに第二詩集が今から楽しみである。ともに第二詩集が今から楽しみである。日を過した。田村君の今後の活躍を願うとしく愉快な一日を過した。田村君の今後の活躍を願うとしく愉快な一日を過した。田村君の今後の活躍を願うとしく愉快な一日を過した。田村君の今後の活躍を願うとしていた。私も初めて結城市出版を祝う会では率直な感想が述べられた。そして集出版を祝う会では率直な感想が述べられた。そして集出版を祝う会では率直な感想が述べられた。そして集出版を祝う会では率直な感想が述べられた。

-ンボの輪

川原 昇さんを悼む

正月に星雲書房の川原昇さんが八 大歳で亡くなられた。文治堂書店 大歳で亡くなられた。文治堂書店 と共通の搬入先である開発社さんを と共通の搬入先である開発社さんを と共通の搬入先である開発社さんを

演劇に関する出版一筋、長年にわたり文治堂の良きパートナー。平成たり文治堂の良きパートナー。平成たり文治堂の良きパートナー。平成たり文治堂の良きパートナー。平成か売れない嘆き節ばかりだった。かつては毎年夏に催される高校生の演つては毎年夏に催される高校生の演という。昭和の末にも新作の脚本集を毎年何冊か出版し、その売り上げを毎年何冊か出版し、その売り上げで食べていける時代があったのだ。

り難うございました。(耕) 思い出すのは間口の狭い大塚の事務 は紐引き、階段には丁寧に刊行書籍 は紐引き、階段には丁寧に刊行書籍 層マンションが建つ。

最近の若いモン

十年ほど前までは、電車の中では 大の姿が多く見られたものだが、今 ではスマホに取って代わられてい ではスマホに取って代わられてい る。あっちで指先、こっちで指先。 る。あっちで指先、こっちで指先。 ることがあるのだろうと思う。 かくいう私は、バブル崩壊直後に かくいう私は、バブル崩壊直後に

代」に属している。それこそ、ファイ」に属している。それこそ、ファッールとして重要な地位を占めていびにも勤しんだが、やはり小学生のびにも勤しんだが、やはり小学生のがにも勤しんだが、やはりかが上のが単れている。

そして、ウィンドウズ95やアニメームにも明け暮れていた。 一本ットを通じて、友人との対戦ゲーネットを通じて、友人との対戦ゲーネットを通じて、方人との対戦がしつつあったインターネットを通じて、方人との対策が

高校生から大学に入るくらいの頃 は、ゲームセンター(ゲーセン)の は、ゲームセンター(ゲーセン)の が戦型格闘ゲーム(格ゲー)が最盛 対戦型格闘ゲーム(格ゲー)が最盛 対戦型格闘がーム(格ゲー)が最盛 対戦型格闘がーム(格が)が最盛

二十一世紀を迎えた大学生のときに、ドイツへ一年間留学したが、現地の学生との会話の糸口として、アニメやゲームの話は鉄板のネタだった。ドイツに限らず、日本語を学びた。ドイツに限らず、日本語を学びた。ドイツに限らず、日本語を学びかる理由として、アニメへの興味を挙げるのはごく一般的だ。
さて最近はというと、さすがにゲームに熱中するほどの時間はない。一時はゲーム脳などという気もない。一時はゲーム脳などという気もない。一時はゲーム脳などという言葉も流行りかけたが、適度であればテも流行りかけたが、適度であればテも流行りかけたが、適度であればテレビゲームはストレス発散や脳の体

操にはちょうど良いと考えている。操にはちょうど良いと考えていることのでは、社会の中でのつじている。近頃は、社会の中でのつじている。近頃は、社会の中でのつながりが薄くなってきていることのながりが薄くなってきている。と緊密な関係を築くことを目的とすと緊密な関係を築くことを目的とすと、

イケメンに擬人化したゲームが人気だ。このような指向のゲームには、さしもの私も違和感を覚える(ただ、さしもの私も違和感を覚える(ただ、のめり込んでいる私と同世代以上ののが登場した。芥川龍之介や太宰治ムが登場した。芥川龍之介や太宰治などはもちろんのこと、夏目漱石やなどはもちろんのこと、夏目漱石やなどはもちろんのこと、夏目漱石やなどはもちろんのこと、夏目漱石やなどはもちろんのこと、夏目漱石やなどはもちろんのこと、夏目漱石やなどはもちろんのこと、

い。 ターネットで検索していただきたる方は、『文豪アルケミスト』 とイン

武蔵野バラ会の

母が好きであったことも影響した。中した。そのひとつがバラ作りであ中した。そのひとつがバラ作りであ性に合っていて、植物の栽培にも熱性に合っていて、植物の栽培にも熱性に合っていて、を来不器用で工作は苦手っていた。生来不器用で工作は苦手っていた。

する。一体どんなものやらと気にな

旧日本軍の戦艦や日本刀を美少女やるような内容が増えている。とくに、

当時、バラの元肥に使ったのは緑 という園芸店で仕入れた牛糞で ある。あと日常の追肥には水肥をよ 大使用した。植物栽培の三要素は窒 素、リン酸、加里であるが、戦時の 遺産のまま庭にあった大きな防火用 水に、油粕と骨粉と硫酸加里をぶち 水に、油粕と骨粉と硫酸加里をぶち 水に、油粕と骨粉と硫酸加速を必 で希釈し根本にかけるとよく効い で希釈し根本にかけるとよく効い

昭和30年代初期、大学をでて働き 昭和30年代初期、大学をでて働き た「ピース」という銘花であった。 た「ピース」という銘花であった。 た「ピース」という銘花であった。 かが大型ダブルベッドほど見事な大 かった でしまみがかった金色に咲いて、 本当に素晴らしかった。

で、後に米国のバイヤーに買い取らム・A・メイヤンが1935年に作出シス・メイヤン」と称された銘花し、当初は母親の名を取って「マダシス・メイヤンが1935年に作出

さて高校3年の頃から私は武蔵野さて高校3年の頃から私は武蔵野がラ会にも入会していた。初代の同バラ会にも入会していた。初代の同なの編集長だった福岡誠一氏であった。確か三鷹にあったお宅のバラをといった。といった。というで見学したこともあった。しかし、皆で見学したこともあった。しかし、皆で見学したこともあった。しかし、皆で見学したこともあったからである。

って武蔵野バラ会に再入会したのはっていた。しかしあるきっかけがあな栽培も、懐かしい会からも遠ざかに数本のバラは植えていたが本格的に数本のバラはすんでいたが本格的

聞かれた。その間の事情を何度も説 老いる一方なのに。 が咲いている。このシーラカンスが 三氏により作出された銘花「聖火」 思い出深い「ピース」と、東京オリ が経った。わが家の庭には、今でも 考えた一言は古代魚シーラカンスに 明するのがさすがに面倒で、そこで ある。会長はすでに四代目、昔知っ ンピックの年に京成バラ園で鈴木省 ンスです」というセリフだった。 因み「私は武蔵野バラ会のシーラカ いつから入っていますか?」とよく たことに再入会後、「貴方はバラ会に ていた人は一人も居なかった。困っ 平成十六年、七十歳になってからで 再入会してからも、さらに十年金

追悼

渡辺文治

二〇一七·五·十六

没 生

渡辺文治さん

曽我貢誠

五月十六日、文治堂書店の初代店工月十六日、文治堂書店の初代店工、渡辺文治さんが亡くなった。享年、渡辺文治さんが亡くなった。享年、渡辺文治さんが亡くなった。京年九三歳。私が初めて渡辺さんに会ったのは文京区の護国寺に近い十数坪ののは文京区の護国寺に近い十数坪ののは文京区の護国寺に近い十数坪ののは文京区の護国寺に近い十数坪ののは文京区の護国寺に近いた。書店という感じではなくきんの書籍が所狭しとうず高く積くさんの書籍が所狭しとうず高く積くさんの書籍が所狭しとうず高く積くさんの書籍が所狭しとうず高く積くさんの書籍が所狭しとうでは、

田倒された記憶がある。 とが始まると、作品を執筆順に参加 と、その中で渡辺さんの穏やかだが た。その中で渡辺さんの穏やかだが た。その中で渡辺さんの穏やかだが た。その中で渡辺さんの穏やかだが た。その中で渡辺さんの穏やかだが

龍太さんが生れている。昭和三十四に北大の農学部(水産学科)に入学くつかある。戦後は銚子商業で生物くつかある。戦後は銚子商業で生物の教師をしたが数年で退職、意を決して都内に移り昭和二十四年「文治して都内に移り昭和二十四年「文治して都内に移り昭和二十四年「文治の宅配で生活し、その間結婚もしての宅配で生活し、その間結婚もしての宅配で生活し、その間結婚もしている。昭和三十四

成しなかった。

「既養しなかった。

「原稿復刻版」李陵」は濱の後の「原稿復刻版」李陵」は濱の一度、本での後の「原稿復刻版」李陵」は濱の一年に出版業も始めた。その第一歩が

平成になって文治堂は勝畑耕一氏に引き継がれた。彼は渡辺さんから「ハウツウ物は出すな。芸能・政治の本を出すな。どんな無名の人間での本を出すな。どんな無名の人間でもキラリと光る作品があったら、そもキラリと光る作品があったら、そもキラリと光る作品があったら、それを本として世に残せ」と言われたとを聞いた。

渡辺文治さんの冥福を祈る。緑に囲まれた郊外の火葬場だった。の下、光が燦燦と降り注ぎ鮮やかなは穏やかな日で、雲ひとつない青空は、翌日には荼毘にふされた。当日が、翌日には茶毘にふされた。当日

文治さんが遺した

北川太

世間的には出版社の社長だったろう れば、忽ち渓流の釣り人に変身する。 なかれ)そんな生涯だったろうかと。 の「うしの いっぽは いのちのい 当たり前のような日々の生活。丑年 だされるあの勝手気ままな、それが 得とはまるで違ったところから紡ぎ うのか温かいというのか、世上の損 ないと思うとガクンと淋しい。 の中では茫々と生きているのに、 きてきた文治さんはもういない。 評論を書き続け、 (牛の一歩は命のい、命一途に悔い 文治さんの不思議な眼、鋭いとい 本を語り、美にこだわり、小説や いのちいちずにくいなかれ」、 お互いに四十代後半だった頃以 同じ空気を吸っていっしょに生 釣り道具に熱中す

> 方もない本造りの数々。 社も手をつけない、採算無視の、途 だこの出版社が企てたのは、大出版 大工の出版社が企てたのは、大出版 大工の出版社が企てたのは、大出版 大工の出版社が企びたのは、大出版 大工の出版社が企びたのは、大出版 大工の出版社が企びたのは、大出版 大工の出版社が企びたのは、大出版 大工の出版社が企びたのは、大出版

文治さんに初めて会ったのは、最

り版刷り百部限定の『光太郎資料』り版刷り百部限定の『光太郎資料』を役立ててくれそうな全集の読者におかしな作業に眼をつけて、有無たおかしな作業に眼をつけて、有無たおかしな作業にしていると、ガ

橋。あとの三冊は明治·大正·昭和、 大郎資料』は筑摩の全集よりはるか に抱き甲斐のある箱入り、麻布装の にゆくばかりの造本で、昭和四七年 から次々と刊行されて全六巻までに なった。初めの三冊はその後に出る なった。初めの三冊はその後に出る なった。初めの三冊はその後に出る

りもない。
というでは、いまもかけがえがない。そしてその後に関わった多がない。そしてその後に関わった多がない。そしてるの様に関わった多がない。そしてその後に関わった多いなどの集大成で、いまもかけがえ

なく涙があふれた。 行がある。今度読み返して、 のなかに、自分の一生を本との付き く出版屋の悲哀を描いた短編だ。そ よろしく、売れない純文学の本を抱 る。明日の生活費にも困り、行商人 た。その『蝉』の六号に文治さんの なくなり、時代は激しく変移してい ともなった。しかし学生は本を買わ のは昭和五十年七月だが、北川が試 合いですごす決心をした、という一 えて都内の大学図書館を毎日訪ね歩 小説「キャンパスの秋」がのってい 行として光太郎伝を書き始める糸口 文治堂が小冊子 『蝉』を創刊した

たいと思っておりました。「どうし が過ぎました。 ておいでかな」と思いながら月日 渡辺文治さん、ずっとお会いし 中 島 敦・ご遺族の弔文

当にもう一度お会いしたかったで かな微笑はもう見られないのです ね。文治堂さん、さようなら、本 寡黙で謙虚な人でした。あの静

中島 桓智

敏枝

風 光

受いたしました。父の全集出版で 渡辺文治様御逝去のお知らせ拝 西 清・ご遺族の弔文

神西 敦子 福をお祈りいたします。

は大変お世話になりました。御冥

の刊行

木 村 和

渡辺文治さんは、幾つかの特筆す

業であった。 の年月を要した。社運を賭けた大事 に完結するまで、第一巻から十余年 る第一級の成果である。一九七六年 全六巻を刊行したことは、歴史に残 出版社である文治堂が『神西清全集』 中小ひしめく出版業界にあって、小 べき仕事を成しとげた人である。大

のである。親友だった堀辰雄の文学 中で決して忘れてはならない存在な 寡作な作家であったが、日本文学の して質の高い優れた作品を書いた。 いるが、詩人として出発し小説家と フ作品などの多くの名訳で知られて ロシア文学の翻訳者としてチェーホ 神西清(一九〇三~一九五七)は、 世に広めたことでも知られてい

る。

しょう」と私は答えたことがある。 ので「神西さんは彼の恩人だからで ざきたのだろう、と文治さんが問う 藤周作が訪れたという。何故わざわ 『神西清全集』完成まぢかのある 大塚の文治堂書店を、 作家の遠

期の特異な作品をはじめ、多くの作 せた。遠藤はその後、小説家として 論「神々と神と」に暖かな期待を寄 したのは、神西清であり、遠藤の評 「沈黙」など幕府による切支丹弾圧

才能を最初に高く評価し世に送り出 遠藤周作(一九二三~一九九六)の

交わしたことだろう。 文治さんは遠藤周作とどんな話を

品を書いた。

ビューに今回加筆したものです。 次頁は平成六年、 (筆名・谷川清二) へのインタ 勝畑による渡辺

渡辺文治氏に聞く

安ナカは破傷風で生後すぐ亡くなっ 女ナカは破傷風で生後すぐ亡くなっ たときいている。妹の照(子)は幼 少時から喘息もちで昭和二四年に高 校生の時亡くなった。粟粒性結核、 校生の時亡くなった。粟粒性結核、 もう少し早く抗生物質が市販されて いれば助かったのかもしれない。と ころで不思議な縁というものがあ る、その妹と幼稚園で同級だった濱 る、その妹と幼稚園で同級だった濱

戦争中、

兄に次いで僕も北海道に

んだ。二人で角兵衛獅子を演じていんだ。二人で角兵衛獅子を演じていた。当門の銚子は千葉市に次ぐ大都市で漁業の他に交易も盛んだった。醤油とともにシメカス造りといって鰯を煮ともにシメカス造りといって鰯を煮さるのも事業の一環だった。初代は江戸末期に米の流通を手掛けていたらしいが。

者も多くいた。

老の頃の従業員は住み込みもいれるの頃の従業員は住み込みもいれるの頃の従業員は住み込みもいれるの頃の従業員は生み込みもいれるの頃の従業員は生み込みもいれるの頃の従業員は生み込みもいれる

学を、僕は理科(生物)を教えた。 や知った。戦後兄は母校で英語・数 を知った。戦後兄は母校で英語・数 行った。北大では稲垣光弥と知り合

一、二学年が各三クラスだったかな。一、二学年が各三クラスだったかな。正弱色盲といわれ、画業への熱意は、英語を教え、フランス語の初歩をは英語を教え、フランス語の初歩をは英語を教え、フランス語の初歩をは英語を教え、フランス語の初歩をは英語を教え、フランス語の初歩をは英語を教え、フランス語の初歩をは英語を教え、フランス語の初歩をは英語を表紙の絵を描いてくれた)本を出す表紙の絵を描いてくれた)本を出す表紙の絵を描いてくれた)本を出す表紙の絵を描いてくれた)本を出す表紙の絵を描いてくれた。

の見習いをした。たしか東京図書だ の見習いをした。たしか東京図書だ の見習いをした。たしか東京図書だ

五年の秋だったと思う。 (談)の敏江を嫁にもらったんだ。昭和二の敏江を嫁にもらったんだ。昭和二の結婚相手は青柳節子、僕はその妹の結婚相手は青柳節子、僕はその戦時中労組?)、東電の組織票に支えられ県労組?)、東電の組織票に支えられ県労組?)、東電の組織票に支えられ県

編集後記

を制作し、三年半を過ごしたで日本酒を持って中野の中西で日本酒を持って中野の中西で日本酒を持って中野の中西で日本酒を持って中野の中西の田本酒を持って中野の中西の田村の中の田本酒を持っている。

や古い本などが当時のまま置いう。今も父利雄さんの画材いう。今も父利雄さんの画材

アトリエがある。(P32参照

お年玉くれたなあ。」光太郎かれた。「光太郎さん、正月には昔を思い出しながら語ってく自画像が飾られ、中西さんがかれている。片隅に光太郎のかれている。片隅に光太郎の

た。整然とした部屋の中に簡一枚の写真に目が止まっくれた。

枚や貴重な写真なども見せてら渡された買い物のメモ数十

表な木製だけの棺。その上に 中西さんの母富江さんが置い たという。光太郎の告別式の たという。光太郎の告別式の たという。光太郎の告別式の たという。光太郎の告別式の ときの写真だ。その後ろに佐 ときの写真だ。その後ろに佐

いていた。 は雪をかぶった連翹の花が咲たという。家に戻ると、庭にたという。

(桶屋風太郎)は元気な顔を見せてほしい。んの姿が見えない。是非来年んの姿が見えない。是非来年

ン ボ 第 4 号

変を伝えようと、中野から大は草野心平さんに光太郎の急

発 行 2017年7月15日

発 行 者 勝 畑 耕 一

発 行 所 文治堂書店

〒167 - 0021杉並区井草 2 -24-15

E-mail: bunchi@pop06.odn.ne.jp

URL: http://www.bunchi.net/

郵便振替 00180-6-116656

印刷·製本 北日本印刷株式会社

〒930-2201 富山市草島134-10